

No.	指摘箇所	意見・要望等	意見に対する対応
1	▶ 文章の構成について P2 「1 人口ビジョンの位置づけ」の本文8行目	全力を注ぐこと等→全力を注ぐことなど	文章のバランスを考慮し、現状の表現としたいと考えておりますので、ご意見として承ります。
2	▶ 文章の構成について P3 「3 人口の現状分析 (1)人口の推移」の本文2行目	に26,800人あった人口は→26,800人だったが、	ご意見を参考に、「約26,800人あった人口は」を「約26,800人であった人口は」と文言を修正しました。
3	▶ 文章の構成について P3 「3 人口の現状分析 (1)人口の推移」の本文4行目	には、人口が6,500人→には6,500人(文言で「本町の人口は」としているため)	文章のバランスを考慮し、現状の表現としたいと考えておりますので、ご意見として承ります。
4	▶ 文章の構成について P3 「3 人口の現状分析 (1)人口の推移」の本文5行目	4,535人まで減少することが予測されます。→4,535人になることが予測されています。(人口は前と同じ理由。最後は社人研の推計のため)	ご意見を参考に、「4,535人まで減少することが予測されます。」を「4,535人まで減少すると予測されています。」と文言を修正しました。
5	▶ 文章の構成について P4 「3 人口の現状分析 (2)年齢別人口」の本文1行目	高齢人口(65歳以上)が年々増加→高齢人口(65歳以上)の比率が年々増加。(数は増加していない集計期間もあるため)	ご意見を参考に、「老年人口(65歳以上)が年々増加」を「老年人口(65歳以上)の割合が年々増加」と文言を修正しました。
6	▶ 文章の構成について P4 「3 人口の現状分析 (2)年齢別人口」の本文4行目	(1980)年に15,669人いた生産→(1980)年に15,669人だった生産(いた(居た)はそぐわないのでは)	ご意見のとおり、「昭和55(1980)年に15,669人いた生産年齢人口は、」を「昭和55(1980)年に15,669人であった生産年齢人口は、」と文言を修正しました。
7	▶ 文章の構成について P4 「3 人口の現状分析 (2)年齢別人口」の本文5行目	2020年には7,062人まで減少し、総人口に→2020年には7,062人に総人口に(文章に「まで」「減少」が繰り返されたため)	ご意見を参考に、「また、生産年齢人口(15～64歳)は急激に減少し、昭和55(1980)年に15,669人だった生産年齢人口は、令和2(2020)年には7,062人まで減少し、」を「また、昭和55(1980)年に15,669人であった生産年齢人口は、令和2(2020)年には7,062人まで急激に減少し、」と文言を修正しました。
8	▶ 文章の構成について P4～5	2025年以降については南会津町は生産年齢人口を15歳から75歳に、老年人口を75歳以上に	P4～5についてのご意見につきましては、本町の区分を変えないため、ご意見として承ります。
9	▶ 文章の構成について P8 本文6行目	していません→されていません (内閣府統計を出したのは町ではないため)	「内閣府推計ワークシート」を使用し、町で算出したものであり、現状の表現としたいと思っておりますので、ご意見として承ります。
10	▶ 文章の構成について P9 「3 人口の現状分析 (3)人口動態」の本文4行目	先にも述べたとおり、→年齢別人口の項でも述べたように、	文章のバランスを考慮し、現状の表現としたいと考えておりますので、ご意見として承ります。
11	▶ 文章の構成について P9 「3 人口の現状分析 (3)人口動態」の本文7行目	以前は、出生数が死亡数→平成2年(1990)年までは出生数が死亡数	ご意見のとおり、「以前は、出生数が死亡数を上回る」を「平成2(1990)年までは、出生数が死亡数を上回る」と文言を修正しました。
12	▶ 文章の構成について P9 「3 人口の現状分析 (3)人口動態」の本文8行目	平成3(1991)年に「自然減」に転じて以降、その差は→その後は「自然減」となり、その差は	ご意見のとおり、「平成3(1991)年に「自然減」に転じて以降、その差は」を「その後は「自然減」となり、その差は」と文言を修正しました。
13	▶ 文章の構成について P9 「3 人口の現状分析 (3)人口動態」の本文9行目	年々減少しており、近年は60人を年々減少しており、昭和60(1985)年に289人だったものが、令和元(2019)年以降は60人を下回っています。	文章のバランスを考慮し、現状の表現としたいと考えておりますので、ご意見として承ります。
14	▶ 文章の構成について P11 10行目	本町の0～4歳子供人口は減少し続け、その差は・・・平成2(1990)年の・・・322人まで減少しました。 →本町の0～4歳子供人口は減少し続けています。平成2(1990)年の1,217人から・・・322人まで減少しました。また、減少率も年々大きくなっています。	ご意見を参考に、「本町の0～4歳子ども人口は減少し続け、その減少率は年々大きくなっており、」を「本町の0～4歳子ども人口は減少し続け、その減少率は年々拡大傾向にあり、」と文言を修正しました。
15	▶ 地域コミュニティについて P17 「■町民経済縮小の懸念」の本文1行目	地方の経済規模→町の(または地域の)	ご意見のとおり、「地方の経済規模」を「町の経済規模」と文言を修正しました。
16	▶ 地域コミュニティについて P17	・地域コミュニティでは、役員のなり手がなくなる。役員はやっても事務処理はできない状態になる。外部委託などで事務継続ができない組織へは解散の手助けや機能の移行も必要と思う。 ・子供の減少でPTA・スポ少・部活などでの個々の家庭負担が増えていると思う。それに身近に見る若い世代の子育ての大変さだけが強調されてしまう。また教員の数が限られるのも問題。 ・部活の地域移行もこの分野と思うが、指導者や場所などそれができる競技があるのか、部活動なのか習い事なのか。広域とは言えどこまでの括りで行うのか。課題が多い。	少子高齢化が進む本町において、地域を含め様々な組織での担い手不足が進んでいるとの声が届いております。また、教員数が限られているなかでは部活動の地域移行も重要な考え方であると認識しております。このようななか、地域内でのつながりは今後も重要であると考えておりますので、ご意見として承ります。
17	▶ 文章の構成について P19 ■魅力あるふるさとづくりの強化 本文2行目	本町単独で実行→本町単独での実行	ご意見のとおり、「本町単独で実行」を「本町単独での実行」と文言を修正しました。
18	▶ 文章の構成について P19	Uターン政策の充実 首都圏にいる子育て世代や単身者を積極的に帰還して頂きを明文	ご意見を参考に、「■関係人口と移住・定住者の確保・増大」の文中に、「Uターン施策の充実」について文言を追加しました。

No.	指摘箇所	意見・要望等	意見に対する対応
19	▶ 文章の構成について P22 「2 戦略の推進体制 (1)政策の5原則に基づく展開」の本文1行目	盛り込まれた「政策5原則」→盛り込まれた以下の「政策5原則」	ご意見のとおり、『「政策5原則」』を『以下の「政策5原則」』と文言を修正しました。また、「南会津総合戦略推進本部」の構成についても本文中に記載しました。
20	▶「南会津町総合戦略推進本部」について P22 「2 戦略の推進体制 (2)評価指標(KPI)と検証による定期的な見直し」本文2行目	「南会津町総合戦略推進本部」の構成は。	「南会津町総合戦略推進本部」は町長(本部長)、副町長(副本部長)、教育長および課長等により構成されております。なお、構成メンバーについては、P22「(2)評価指標(KPI)と検証による定期的な見直し」の本文中に記載しました。
21	▶ 文章の構成について P26 本文4行目	人口減少でも→人口が減少しても	ご意見のとおり、「人口減少でも」を「人口が減少しても」と文言を修正しました。
22	▶ 文章の構成について P26 本文6行目	取り組む戦略について→取り組む戦略を	文章のバランスを考慮し、現状の表現としたいと考えておりますので、ご意見として承ります。
23	▶ 特化戦略について P26	図表★印が『特化戦略』である事が分かりにくい。	ご意見を参考に、P26の表中の表記方法を変更しました。
24	▶ 基本目標1の「重要業績評価指標」について P27	転出超過R6～R12 900人 上記転出超過はわかりますが社会減対策、自然減対策が現状を考えて目標を作られた方が良く、もっと町民にわかりやすく(数値目標)	転出超過の数値目標については、町での人口ビジョンを基に設定をしています。現状(H29-R5)においては転出超過が1,060人となっており、現状のまま進むと更に悪化することが予測されますが、各施策や事業の実施により900人を目標としたいと考えておりますので、ご意見として承ります。
25	▶ 文章の構成について P28 「①郷土愛を軸としたキャリア教育の推進」について	『①郷土愛を軸としたキャリア教育の推進』の本文2段目は、高校魅力化の内容なので、34ページの『③高校の魅力化と地域で支える体制づくり』に記載した方がよいのでは。	ご意見のとおり、P28の2段目に記載している文章をP34へ記載しました。
26	▶ 文章の構成について P28	高卒での地元企業への積極的展開を明文	ご意見を参考に、文中に「①郷土愛を軸としたキャリア教育の推進」の文中に、「高卒での地元企業への就職」について文言を追加しました。
27	▶ 文章の構成について P29 「②関係人口の創出」の本文2行目	SNS等→SNSなど	文章のバランスを考慮し、現状の表現としたいと考えておりますので、ご意見として承ります。
28	▶ 施策1-3 移住定住対策のための条件整備と情報発信の充実強化について P30 「①移住支援の強化」、「②空き家の活用と移住定住に係るサポートの充実」について	移住定住促進のため住まい確保策として、町営住宅の条件や家賃の仕組み等について見直す機会は設けられないでしょうか。 その他具体的には ①町営住宅の入居条件を見直し、何らかの条件付きで単身での町営住宅への入居を可能とする ②単身者や二人世帯等が暮らせるような小ぶりの空きスペース(空き家バンクには載らない、地域の人のロコミでしか借りられない車庫2階などの空いた居住スペースを自力で探す現実がある)の「ようこそみなみあい」移住検討者向け賃貸バンク化に町が取り組む。 ③単身者も入居可能なシェアハウスなどを町が整備する(空き家リフォーム等で)。 ④収入条件に応じた町営住宅の家賃が都心マンション並みで高額過ぎるため、さすがに10万円を超えない範囲に見直しできないか。 ⑤④と関連して町営住宅に空き室がある。こうした部屋を家賃負担を抑えられる特定優良賃貸住宅に切り替え、利用できる人を増やせないのか。 1～3は自身が単身で移住しようとした際に住居探しに非常に苦勞し、「単身移住者はむしろ拒絶されているのでは」と感じ、このまま住居が見付からなければ本町は選択肢から外そうと考えた実験から思うことです。 4～5は本町の平均世帯収入を考えれば高額過ぎる家賃負担で、移住者を含む若い世帯が住まい探しに困難を抱えています。 家賃高騰を前にあせって空き家を探す世帯も見られ、売り手側から足元を見られる恐れもあります。 こうした環境は移住の足かせとなったり、住み続ける可能性を減らしてしまう要因になったりするのではないかと考えます。 新規就農者向けの住宅も別で2部屋整備されていますが数が少なく、町営住宅の空き室をこうした活用に振り替えることで住居探しに困難を抱える町民をサポート出来ないでしょうか。	他市町村では、空き家や空き店舗を活用した様々な取り組みがされています。本町においては、高齢化に伴う空き家の増加が問題になっていることに加え、移住者の住宅確保も課題となっているとの声も届いています。 個別具体的な事業提案のため、町営住宅の条件等の見直しも含め、今後の活用について事業を検討する際の参考とさせていただきますので、ご意見として承ります。
29	▶ 文章の構成について P30 「②空き家の活用と移住定住に係るサポートの充実」について	「次世代を担う若い世代」を削除し、すべての世代に	ご意見を参考に、「次世代を担う若い世代を呼び込み」を「若い世代を中心に移住者を呼び込み」と文言を修正しました。
30	▶ 文章の構成について P32 「①地域全体で結婚を応援する環境の整備」の本文1～2行目	イベントの企画の充実や→イベントの充実や	ご意見のとおり「マッチングイベントの企画の充実」を「マッチングイベントの充実」と文言を修正しました。
31	▶ 文章の構成について P32 「①地域全体で結婚を応援する環境の整備」の本文2行目	サポーター等→サポーターなど	文章のバランスを考慮し、現状の表現としたいと考えておりますので、ご意見として承ります。
32	▶ 文章の構成について P32	晩婚化への対応として、高齢出産(40代)への対応を明文	デリケートな問題に加え、不妊の要因が高齢ばかりではないため、高齢出産への対応についての明記は控え、ご意見として承ります。
33	▶ 文章の構成について P33 「①子育て世代の負担と不安の軽減を図る」の本文4行目	国の無償化の対象とならない→「国の無償化」?	ご意見を参考に、「国の無償化の対象とならない」を「国の保育料の無償化の対象とならない」と文言を修正しました。

No.	指摘箇所	意見・要望等	意見に対する対応
34	▶ 文章の構成について P33 「②子育て世代の多様なニーズへの対応」の本文6行目	SNS等→SNSなど	文章のバランスを考慮し、現状の表現としたいと考えておりますので、ご意見として承ります。
35	▶ 文章の構成について P33 「②子育て世代の多様なニーズへの対応」の本文6行目	デジタルを活用→活用するのは技術ではないか	ご意見を参考に、「SNS等のデジタルを活用して」を「SNS等のデジタルコンテンツを活用して」と文言を修正しました。
36	▶ 施策2-2「子育て支援の充実について」 P33	子どもが安全、安心して遊べる場所（四季を通じて）普通外の遊園地の充実、室内の遊園場所も必要（空家を利用） 地域全体で結婚も子育ても支援をできる体制（高齢者や退職者）各町内隣組の支援制度を考えたか？	子どもの遊び場（天候に左右されない）については様々な場面でご意見を頂いております。具体的な事業を検討する際の参考とさせていただきますので、ご意見として承ります。
37	▶ 「施策2-3 特性をいかした魅力的な教育環境の整備」について P34	「子どもを産み育てたいと思う環境作り」&「将来地元で働きたいと思うような体制づくり」を目指すためには、南会津高校の魅力化一本では不足で、一方で同校以外の高校へ進学したい町内中学生の将来についても両輪で投資を行うべきではと考えます。 具体的には、本施策において既に掲げられている①地元高校へ通いたい生徒への投資（南会津高校の魅力化・進学者増加）に加え、②町外高校へ進学したい生徒への投資（交通費や下宿代の支援や無利子奨学金など）という目線からの施策を加えることを提案します。 従って、「子どもを産み育てたいと思う環境作り」「将来地元で働きたいと思うような体制づくり」のための計画は、現実を直視し、地元校・地元校以外を両輪で考えた方が将来の町のためになるのではないのでしょうか。 「中学生の町外流出を減らそう（＝町内進学者増加を目指す）」という一方向に注力するのではなく、若くして町外に出て南会津高校ではカバーしきれない専門性や知識を得たい、学びたい、経験を積みみたいと思う地元中学生をも両輪で支援し、快く広い世界へ送り出すことも必要と考えます。 「高校進学タイミングで町を出たことで残念がられた」と思いながら町を去るか、「高校進学の際、南会津町は自分の選択を支援してくれた」と思いながら新しい土地で学び始めるかは、生徒自身の故郷への心証を大きく左右すると思います。 後者の方が、将来「故郷に貢献したい」と思う人材が生じる可能性は高いのではないのでしょうか。 多様な経験を経験した人材が町に戻って来ることは、南会津町の将来にプラスに働くのではないのでしょうか。 であれば、政策に取り組む価値は充分にあると考えます。 現計画からは町が「町内高校への進学者増加を目指す」方向のみに注力する姿勢が感じられ、子どもの可能性を広げてあげたいと考える二児の親としては非常に残念に思うと同時に、子供を安心して高校生まで産み育てられる環境であるとは受け止められません。 たとえ同規模の予算を割くことが難しいとしても、少なくとも本町に住民票のある中学生であれば、町内進学者・町外進学者どちらの生徒の選択にも応援するような姿勢なり、文言なりを本計画には盛り込んで欲しいと要望します。（親の住居は町内とするなど、条件面を工夫することで出来ることのあるのではないのでしょうか）。	ご意見にあるとおり、町外の高等学校での学びも非常に重要なものであると認識しておりますが、財源も限られており難しいと考えます。「一度地元を離れること＝地元回帰につながらない」との視点ではなく、生徒一人ひとりの夢や希望を尊重し、一度地元を離れたことで気づく地元の良さ、また、町外での学びは地元に戻ってきた際の要になると考えています。 町としては、生徒や保護者の負担軽減のためにも南会津高校の魅力化に取り組むたいと考えておりますので、ご意見として承ります。
38	▶ 文章の構成について P34	『③高校の魅力化と地域で支える体制づくり』について、高校魅力化は単に教育環境の整備に留まらず、将来の地域を担う人材の育成につなげることが大事だと思うので、具体的施策を『高校の魅力化と地域で支える人材の育成』とし、本文にも『地域の将来を担う人材の育成』という文言を追加しては。 （場合によっては、40ページの『地域づくりを支える人材の育成』に再掲してもよいかと思います。）	ご意見のとおり、「③高校の魅力化と地域で支える体制づくり」について「③高校の魅力化と地域で支える人材の育成」とし、本文にも「地域の将来を担う人材の育成」という文言を追加しました。（40ページへも再掲）
39	▶ 施策3-1 地域産業のブランド力や競争力の強化について P36 「②基盤産業である農業の振興と新規就農者の確保」について	収穫の人手不足に悩まされている、自力で手伝ってくれる人を探すのが大変だ、人脈が無い等、毎年農家の方から聞きます。収穫時間のみの短時間・短時間の人手確保策として、町は積極的に施策を行ってはどうでしょうか。収穫は早朝のみ土日日のみの短時間でも有難いと農家の方は話しています。 基幹産業である農家・農業移住者を町ぐるみで応援し、魅力化を図る姿勢を分かりやすく表現出来ると同時に、メディアの関心も高い分野でパブリシティのメリットも。南会津町への関心・話題性も生じるのではないのでしょうか。 例えば ①公務員の兼業許可（元来公務員の兼業は不可とされていますが特産品に係る農業分野では可としている他自治体の例がたびたび報道されています）。 ②地元企業に対し、兼業・副業制度の導入を町が積極的に呼びかける。制度化して兼業・副業制度を導入している企業を「多様な働き方応援企業」などとして認定し「見える化」する。（※会社勤めの労働者側は副業しても良いか経営側に尋ねること自体もはばかれるケースがあるため「見える化」がポイントではないかと考えます）。 地場産業への兼業のみ可とする場合は「みなみあいづ応援企業」などの名称も考えられますが、テレワークの推進等による働き方の多様性・移住促進施策としての側面も同時に狙える可能性を考慮すると、副業内容は制限せず、「みなみあいづ多様な働き方応援企業」などの名称の方が裾野を広げられるかもしれません。 現段階では良い名称は浮かびませんでしたが、もしこのような施策を検討される際には、町内外への話題性・PRの観点から名称に「南会津」というワードを入れると同時に、親しみやすく覚えやすい名称、印象に残る名称を検討すると、多くの人の参加を促し、波及効果が高まるのではないかと考えます。	南会津町の基幹産業でもある農業をより発展させていくために、有効な手段であると考えます。個別具体的な事業提案のため、事業を検討する際の参考とさせていただきますので、ご意見として承ります。
40	▶ 施策3-3「地域産業のブランド力や競争力の強化」について P36	(1)町内産業(町内企業)の要望、希望(人材確保・育成)を含めて情報収集して、現存する企業の事への支援を考える。(補助金も含む)	企業誘致だけではなく、既存の町内企業の支援も重要であると考えており、今後の参考とさせていただきますので、ご意見として承ります。
41	▶ 文章の構成について P38 「①創業・事業承継への支援」の本文1～2行目	「粘り強い経営」「果敢なチャレンジ」＝難しく抽象的	文章のバランスを考慮し、現状の表現としたいと考えておりますので、ご意見として承ります。

No.	指摘箇所	意見・要望等	意見に対する対応
42	▶ 施策3-2「創業・事業承継への支援と企業誘致の推進」について P38	地場産業の物品の購入の促進や地産地消を考えて小さな企業でも町で支援体制を作る。	地場産業のPRを含め、町だけではなく企業との連携を図りながら事業を検討していきたいと考えておりますので、ご意見として承ります。
43	▶ 基本目標4「魅力と活力あふれる安全安心なまちをつくる」について P39	今住んでいる地域や集落の宝物再発見とPRを町全体で広報特集、記事の連載を行う。観光資源、歴史資源、民族、郷土料理など	町の魅力を更に発信できるよう、広報内容等を検討していきたいと考えておりますので、ご意見として承ります。
44	▶ 文章の構成について P40 「①地域づくりを支える人材の育成」の本文5行目	地方に関わる「若者」は本当に増えて居るのか。	ご意見を参考に、「地方に関わる若者が増えていることから」を「地方に関わる若者が増えていると言われていることから」と文言を修正しました。
45	▶ 文章の構成について P40 「①地域づくりを支える人材の育成」の本文6行目	大学生等の町外→大学生らの町外	ご意見を参考に、「大学生等の町外の人材を活用し、外からの視点で見た新たな町の魅力」を「大学生等の人材を活用し、外からの視点や若者の視点で見た新たな町の魅力」と文言を追加しました。
46	▶ 文章の構成について P40 「③これから求められる中心市街地づくり」についての本文4行目	「ステーションプラザを拠点とし」を、「駅から役場、上町石蔵等」に変更	鉄道の玄関口であり、人が集まりやすいステーションプラザを拠点として、戦略的に人流や賑わいの創出に取り組みたいと考えておりますので、ご意見として承ります。
47	▶ 施策4-1「地域の特性をいかした魅力のあるまちづくりの推進」について P40	地域づくりを支える人材又ビジョンや計画作りなどは町全体や各企業の考え方や各団体、各地域の活性をはかりながら、誰でも参画できるシステムが必要と思う。 この町に住んで良かったと ③ 中心市街地づくりは人が集いやすい室内と飲食や郷土料理を楽しめる室内と案内所の設置(ボランティア)が必要。	町の各種計画は住民視点が必要不可欠であり、町民の方の参画が重要であると考えています。計画策定時には、各種審議会等、町民の方の意見をお聞きする場面はありますが、さらなる意見の反映のため、今後の在り方についても検討していきますので、ご意見として承ります。
48	▶ 施策4-2「安心して暮らせるまちづくりの推進」について P41	高齢者(化)、子供も安全、安心して暮らせるには地区(地域)の支援が必要であり、区長会や隣組への支援強化、民生委員への活性化、②地域コミュニティの充実も含めて	少子高齢化が進むなかで、地域コミュニティは重要なものと考えています。今後も各地区と連携を図っていききたいと考えておりますので、ご意見として承ります。
49	▶ 施策4-2「安心して暮らせるまちづくりの推進」について P42 「⑥医療体制の対策」について	西部地域からは距離があるものの、県立南会津病院に小児科があり知識豊富な専門医がいることで、かろうじて安心して子育てをすることが出来ます。地元の診療所ではカバーしきれないor不安な診察内容も多いため(食物アレルギーや小児ぜんそくなど)、町としても現体制を死守すべく、働きかけの継続をお願いいたします。	町としても、現体制の維持に努めていきたいと考えておりますので、ご意見として承ります。
50	▶ 教育分野、産業分野、素案全般について ※P28、P34、P36、その他	素案をおおまかに見せてもらった。文面修正ではなく、箇所において実践できればと考える事を書かせていただく。 P.28 郷土愛を軸とした、幼児期から小中高でのキャリア教育の推進。南会津ならではの学習プログラムの検討。地元高校の魅力化につながる取り組みを支援し、地域と連携をしながら。 P.34 南会津高校への進学者増加を目指す。地元で働きたいと思えるような体制づくりを目指す。 P.36 基盤産業である農業の振興。耕作放棄地が増加。就農者の減少。豊富な地域資源を活用した林業木材産業の活性化。 素案のように人口減少は現実視しながらも、現存する子供たちや将来の子供たちが、この地において好んで生活しようと思える体制づくりを考えていることが伝わってきたことを踏まえ、周囲の知恵や協力を得ながら、以下のことを自分なりに実行しようと考えている。 【教育分野】 部活動地域移行だけでなく、連携できる場面を考え、幼児期から小中高での主要な部活動を含めた交流等がある、この地域ならではの連携した教育課程を作成する。農業・林業木材産業に、幼児期から小中高生に、成長時期に合わせふれあう場面も設ける。 【産業分野】 地形上の利便性を考えると、獣害対策を含め、中山間地・耕作放棄地を県が発行する「ゆめだより」に記載されている太陽光発電用地募集にあるよう賃料を地主に還元いただければと考える。土地の相続放棄等が予想され人口が減る中、区ごとで管理組合等を創設し、賃料で固定資産税等にも対応できるのではないかと考える。 広大な土地を所有しながらも住民の減少が現実視されている現状を考えると、メガソーラーを立地することで温暖化への貢献や獣害対策もでき、生活場面の現状維持につなげられると考える。 山林伐採についても、昨年お願いした山林の土地所有者の特定について、町・NTT・法務局等で情報を共有することで、事業者による誤伐採を防ぐことができれば林業木材産業の活性化につながるのではと考える。	教育分野、産業分野どちらにおいても、地域住民の方との連携が不可欠であると考えています。今後もさらに住民の方々と連携を図りながら、将来を担う方々が住み続けたいと思えるまちづくりに取り組んでいきたいと考えていますので、ご意見として承ります。
51	▶ しごとについて ※指摘ページ等の指定なし	伊南地域において、「リネン」の機織り普及を発展、加速する農業として、耕作放棄地を活用した「亜麻」の栽培と、種と枝からの産業を創出する仕組み。伊南地域で以前は「亜麻」の機織り産業が普及していたため、亜麻の栽培からリネンをつかった手仕事として一連のストーリーはメディアに着目される可能性が大きい。 歴史民俗資料館に在庫している機織り機などを再生し、広くPRする。昭和村の織姫に倣い機織りを手仕事産業として事業募集も可能。 種は亜麻油の原料であり、商品価値の高い現時点で単商品としてブランディングできる。さらに新たな商品に進化していく可能性を見つけ出すことが必ず至ではあるが、現状直接飲用なども行われる商品として定番となっている。関連商品がしやすい。	各地域での特産品を活用し、さらなる町のPRとなるよう、町内事業所の方々とも連携をしながら事業を検討していきたいと考えておりますので、ご意見として承ります。
52	▶ 災害時の連携システムについて ※指摘ページ等の指定なし	観光庁が音頭を取っている災害時連携システムなどに登録申請。 現在、能登半島地震災害において被災した方への災害救助法が適用されているが、一次避難先として、現在閉鎖している、リゾートイン台鞍などの施設を開放する。 今後、南海トラフ地震などの大規模地震災害が起こり得る可能性が高く、そのための施設は、国交省でのデータでも世間に広く知れている。災害に対してのリスクが少ない南会津町を、災害救助のための災害防衛施設としてアピールしてはどうか。	本町は地盤が固く地震に強いことに加え、自然災害も少ない地域となっていることから、これらの地理的優位性を生かしながら、事業を検討していきたいと考えておりますので、ご意見として承ります。

No.	指摘箇所	意見・要望等	意見に対する対応
53	▶ 農林業について ※指摘ページ等の指定なし	・「高齢者や女性、山の営みで採取して卸せる里山林業」 ・山で採取した林産品「持続可能な産品」を集荷販売委託できるシステムのパイロット事業 ・町内登録者が里山に入る際、携帯やGPSトラッカーなどで安心して採取できる現地確認システム ・事前に販路からの募集に応じることが可能な双方向通信のSNS連携システム ・採りすぎないための制限付き採取方法の確立 ・各個人への収入制限をつけ、例えば「月三万円が支出上限」のような制限付き採取であくまで副収入の域を出ない工夫 ・町内の林業情報交換のための施設として「きとね」を利用 ・「身近な林業のすすめ」とした事業推進として登録するためのワークショップや事業説明 ・個人を繋ぐための人員配置による未然に事故や安全を確保する	町の基幹産業となっている農林業のさらなる発展を目指し、ご意見を参考に事業を検討していきたいと考えておりますので、ご意見として承ります。
54	▶ 人口ビジョンについて ※指摘ページ等の指定なし	・人口ビジョンでの予測人口は免れる事ができないものと思う。それをふまえて各個人や家庭、地域がどのような選択を行っていくかの判断材料と思う。 ・15年後2040年には今の約13,000人の人口から4,500人減の8,927人になる予測であることを、町民に正しく認識してもらうことが大事と思う。その上で個人・家庭・地域での判断があると思う。	ご意見のとおり町民の方の理解が大切ですので、自分ごととしてしっかり考えていただくよう周知していきたいと考えておりますので、ご意見として承ります。
55	▶ 観光(交流)について ※指摘ページ等の指定なし	・利益が見込めない観光は観光ではないと思う。公的な支援もあくまでも地域経済GDP押上を目的とするべき。	町としても観光施設は収益性が重要であると考えておりますので、ご意見として承ります。
56	▶ 経費について ※指摘ページ等の指定なし	①役場の課統廃合、町より補助金(定期的)への廃止と役場施設内に入る人員削減 ②議員削減(16名⇒12名)? ③指定管理費の見直しと利益が上がったら還元し、損は自分たち(指定管理者が見積の際に考える) ④役場窓口(各課)暗いイメージなので、笑顔、あいさつ、積極的に明るく町に訪れる人々たちを歓迎する。定期的町の情報(企業や名所、名物)観光地、新名所等発信を行う。 ⑤人口問題対策委員会又は人口対策課の設置は? ⑥この問題は町民にわかってもらえる様に何回もとり上げて、町役場職員全体の意識を高める。	④については、ご意見を庁内にて共有し、改善に努めます。他の意見につきましては今後の検討事項とし、ご意見として承ります。

No.	指摘箇所	意見・要望等	意見に対する対応
57	▶ 観光産業等について ※指摘ページ等の指定なし	南会津町の「人口ビジョン」を考える場合、それも、とても明るい未来という意味(積極的戦略)で「人口ビジョン」を考える場合、現実に基づく必要があると思う。僕が考える現実とは、他所との競争である。 日本国内において、全国津々浦々どこもかしこも「まちづくり、少子高齢化対策」などを行っている。南会津町が日本人の「移住・定住促進」を目指す場合、必ず他所との競争になる。「インバウンド」のような観光産業の場合も同様に、必ず他所との競争となる。 以上のような前提に立って、南会津町の有する「資源・人材・環境・その他」を等身大で見渡して、「人口ビジョン」を考えてみようと思う。即ち、僕は「基本目標1 新しいひとの流れをつくる」に対して、提案する。 ■他所との競争力について 「クリエイティブ資本論」・クリエイティブ都市論(創造都市論)」という著作がある。これは、1960年代に荒廃したニューヨークが如何に再生を果たしたか。ということ参考になり、人が集まる、人が望む、まちづくりとは何?を考察している。 アイラブ・ニューヨークキャンペーン(I Love New York)というものがある。 ドーナツ化現象によって荒廃したニューヨークを冷静に見直して、人はどこに集まるのか?何を求めているのか?分析している。結論から言うと、カフェ、パブ、バー、公園、緑地など、「人と気軽に交流ができる場所」、「一休みできる場所」、「偶有性に満ちている場所」に、人が集まっている傾向を見出す。これらを重点的に整備しながら、現在のおしゃれなニューヨークがある。 日本は、「クリエイティブ都市論」の視点で世界から見ると、神戸市(デザイン)、名古屋市(デザイン)、金沢市(工芸)、札幌市(メディアアート)、鶴岡市(食文化)、浜松市(音楽)、丹波篠山市(工芸)、山形市(映画)、旭川市(デザイン)、臼杵市(食文化)、岡山市(文学)の11都市が認定されている。 南会津町が、具体的にどの町(どの都市)と競争するのかについては、論じるつもりはないが、田園都市(田園ビレッジ)的なニュアンスのクリエイティブ都市は、まだ日本にない。この辺を狙っていくことが、とても面白いと考える。 「寛容性」×「多様性」×「自然」×「芸術(祭りを含む)」これが、南会津町が目指す、人口増加ビジョンであり、田園都市構想であると、言いたい。 日本は、「クリエイティブ都市論」の視点で世界から見ると、神戸市(デザイン)、名古屋市(デザイン)、金沢市(工芸)、札幌市(メディアアート)、鶴岡市(食文化)、浜松市(音楽)、丹波篠山市(工芸)、山形市(映画)、旭川市(デザイン)、臼杵市(食文化)、岡山市(文学)の11都市が認定されている。 南会津町が、具体的にどの町(どの都市)と競争するのかについては、論じるつもりはないが、田園都市(田園ビレッジ)的なニュアンスのクリエイティブ都市は、まだ日本にない。この辺を狙っていくことが、とても面白いと考える。 「寛容性」×「多様性」×「自然」×「芸術(祭りを含む)」これが、南会津町が目指す、人口増加ビジョンであり、田園都市構想であると、言いたい。 ①田舎だからこそ ・土地を生かして、歩道、緑地(公園)、水路をつくる。 ・田舎は、住み心地、自然が近くにあるので、町中が機械的で無味になりがちである。田島もすぐ近くの「マウンテンエリア」、「リバーサイド」に町が向かっていない、接続していない。(これは、とても、もったいないことであると思う) ②カフェや飲食店が少ない ・コロナ禍もあったが、事業継承問題が、飲食店数を減らしている。 ・飲食店を行うスタートアップを支援する。 ・カフェ群が、人を呼ぶ(黒磯がよい例と思う)。 ・旅行者、インバウンド需要を受け止める。 ・まりちゃんらーめんのように、並ぶ風景がなくなってしまった。 ③空き家を積極的に改修する。 ・空き家再活用2.0を掲げる。 ・付加価値を付けて、田島町内の価値を高める。 ・ゲストハウスをたくさん整備する。 ・旅行者、インバウンド需要を受け止める。 ④運営者(プレイヤー)を増やす。 ・南会津町は、工務店、製材所は、まだまだたくさんある。 ・整備後の優秀な運営者を、町外から呼び込む。	ご意見のとおり、日本全国において少子高齢化が深刻化しているなかで、南会津町でしか味わうことができない魅力を高めて発信していく必要があると考えています。いただいたご意見は、今後具体的な事業を検討する際の参考とさせていただきますので、ご意見として承ります。